

「未来高岡」ステップアップトーク（赤丸地区）会議記録 <要旨>

- 1、日 時 平成 28 年 11 月 30 日（水） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 赤丸公民館
- 3、出席者 市民 29 名（うち女性 10 名）
高岡市 市長、経営企画部政策監、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
 - (2) 参加者との意見交換

.....

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

参加者

- ・ 地域の高齢化が進んでいるうえ、核家族化の進行や若い世代の減少により、地域に昔のような勢いが無い。高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう包括支援センターや地域の支援体制を整えるなど、地域で支える時代になっていくと思うが、共創のまちづくりとして勢いのある地域にしていくためにも市からの支援をお願いしたい。

市長

- ・ 共創のまちづくりとは、地域や団体、行政が一緒になって、孤立を防ごうというものがある。あつまり福祉ネット¹を全市に広げることができたので、今後は中学校単位でさらに仕組みを設け、困ったときにサービスが行き届くようにしていきたい。市として財政的に支援しながら、地域に合った仕組み作りと、地域からの協力をお願いしたい。誰もが安心して暮らせるよう、共創のまちづくりにご理解いただきたい。

参加者

- ・ 子どもや、都会から高岡市に戻ってきた高齢者など、まちにとって金銭的な支援が必要となる世代が地元に住み、働き盛りの青年や中年層が都会に行ってしまうという悪循環を止めてほしい。若い世代を高岡市に留めるためにも、企業誘致に力を入れてほしい。
- ・ 菅笠製作に関して、若い世代の担い手がい無い。魅力ある仕事になるよう地元でも努力しているが、市のさらなる理解と協力をお願いしたい。

¹ 住民にとって身近な活動範囲である小学校区を圏域として、地域の福祉・生活課題を解決するために、自治会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉活動員、高齢福祉推進員等が、それぞれの役割と地域の特色を活かしながら連携し、共に支え合う地域福祉ネットワークのこと。

市長

- ・「越中福岡の菅笠製作技術」「菅笠問屋の町並み」として日本遺産に認定されたこともあり、ここ数年で菅笠がクローズアップされるようになった。研修を行うなど若い担い手づくりを進めたい。

参加者

- ・広域的にイノシシ対策について取り組んでほしい。高岡広域エコ・クリーンセンターでイノシシの焼却処分を始めるという報道を見たが、イノシシを持ち込むのは生産組合ではなく各自治会とのことだった。処理開始時までには各自治会長に制度の周知徹底をお願いしたい。

市長

- ・イノシシの個体数を減らすため県とも協議のうえ取り組みを進めている。処分が埋却か焼却しか方法がなく負担であるという意見があったため、今後は高岡広域エコ・クリーンセンターで焼却処分ができるようにしたいと考えている。イノシシの持ち込み方法など具体的な仕組みはこれから検討するが、実施の際は幅広く周知したい。

参加者

- ・来年 4 月から高岡市議会に第三者機関を設置するという報道を見たが、第三者機関の設置には市の予算措置が必要なため、市民の税金を使うことになるので市民の理解が必要とのことだった。第三者機関は議長のもとに置くのだから、設置費用は議会が払うべきではないか。

市長

- ・市議会の第三者委員会や政務活動費については、議会が自ら改革の議論を進めている。議会の予算も市の予算であり、市民の税金を投入していることになる。まずは議会の改革に関する議論の結果を見て、予算関係も含めて整理したい。